がんば

島三小育友会報
発行
広報部
〔第52号〕

島三小育友会発足三十周年記念式典で演ずる、六年生男子による「島原七万石」踊り

育友会長辞任の挨拶

育友会長　本田武彦

私が本校育友会長に就任いたしましてから、すでに二年の歳月が夢のようにたちました。その間、社会の情勢は、政治的にも、経済的にも、また社会的にもいろいろの変化がありましたが、私たちにとってもっとも身近な、衣食住の諸物価が年と共に上がり、日常生活はけっして楽になったとは申しません。

はなはだ失礼ではありますが会員の皆様の中にも、さぞ苦しい中から、ご子弟を通学させておられる方も、おありだろうと、お察し申しております。

育友会といたしましても、できるだけ、ご父母の経済的負担を軽減するよう配慮・努力はいたしてまいりましたが、皆様も、ご承知のとおりの、市の財政状態のために、心ならずも、過重なご負担をお願いいたしましたことは、いつも心苦しく思ってまいりました。それにもかかわらず会員の皆様には、なんら不平不満もおもらしなく、育友会の方針に全面的に、ご理解とご協力をいただきまして、まことに感謝のことばもございません。

私は本年度をもちまして、会長の席を離れることになりましたが、これでご縁が切れてしまったとは思っておりません。

心のつながりは、死ぬまで保たれておりますことでしょう。どこにおりましても、育友会の発展と会員の皆様のご健闘をお祈りいたしております。

会長在任中にたまわりましたご支援、ご芳情に対し、厚くお礼申し上げます。

皆様、どうもありがとうございました。

…おめでとう…

島三小育友会発足三十周年

育友会発足記念式の開催に当って

育友会長　本田武彦

このたび、島三小育友会発足三十周年記念式を挙行するに当り、関係者多数のご参会をいただき、盛会裡に終了することができましたことを厚くお礼申し上げます。

昭和二十三年五月二十九日発足した育友会は幾多の変遷を経て今日に至りましたが、三十周年の節目に当って発足当初からの歩みを振り返ってみることは今後の育友会のあり方に極めて意義があるのではないかということで記念式典を開催したわけでございます。

古いことわざに「温故知新」ということばがあります。「古きをたずねて新らしきを知る。」即ち、今まで歩いてきた道をよく知ることによって、これから先の正しい方向を知ろうという意味であろうかと思います。このたびの三十周年記念式の意義は正にここに在るのではないでしょうか。

昭和二十三年育友会発足当初は戦後の混乱期で、政治・経済・思想・教育すべて混迷の時代であり、国や子どもの将来を憂えた親が学校教育・社会教育の中であらゆる辛苦に堪えて真剣に取り組んだ姿が目に浮ぶようであり、当時の育友会の果たした役割が物心両面に亘り、いかに重大であったかということに思いをはせるものであります。時代は移り、社会情勢は変り、育友会の在り方も時代と共に移り変って今日に至った訳ですが、その時代時代にそれぞれ大きな障害もあっただろうと考えます。しかし、先輩各位のご努力の積み重ねにより、幾多の困難をのり越えて今日の育友会が築かれたものであります。

今、私たちは静かに過去を振り返り、先輩の苦労やその足跡を偲びながら今後の育友会の在り方、進む方向を考える時ではないでしょうか。現代の社会機構の中で、私たちの生活そのものが大きく変り、日本そのものが世界の中の日本として国際状勢の中で考えねばならぬ社会であり、その中で学校教育も大きな転換期を迎えている時、私たち育友会の使命は極めて重大であると存じます。

島三小育友会30年の歩み

年月日	おもなことがら	会長
昭和11年11月	島原市立第三小学校後援会発足	初代会長 山本富治氏
23年5月	「父母と先生の会」結成　会費1世帯15円	初代会長 大沢清人氏
24年		2代 永野参事氏
25年1月	子ども銀行創設	3代 織田万寿夫氏
26年12月	子ども銀行県表彰	4代 上田金市氏
27年11月	子ども銀行中央表彰 「父母と先生の会」会費｛児童1人40円 2人以上50円	
28年		5代 御厨米吉氏
29年	優良社会教育団体として県表彰	
32年		6代 岩本一男氏
33年		7代 池田真氏
35年	「父母と先生の会」を島三小育友会と名称を変更 新校舎．講堂建設（現音楽室）	
36年	天皇皇后両陛下本校理科教育ご観覧 授乳室兼更衣室及び倉庫の建設	
37年	育友会報「がんば」発行開始	8代 藤田実氏
38年	島三小創立90周年記念事業 （天皇陛下ご巡幸記念碑建設）	
39年	安全通学路の設置	9代 本田巻男氏
40年	プール建設委員会設置　育友会費80円	
43年	プール落成	10代 山本蔦五郎氏
46年	体育館建設の運動開始	
49年	島三小創立百周年記念事業促進委員会設立　育友会費100円	11代 吉田重信氏
51年	島三小創立百周年記念式典並びに記念碑その他事業　体育館落成 島三小育友会県P表彰　全国表彰	12代 本田武彦
52年	島三小育友会発足30周年記念式典	

島原市立第三小学校

育友会発足三十年記念式祝辞

島原市教育委員会
教育長　平井　皎

春とはいいながらもまだ寒さが肌にしみるようでございます。この寒空に力強く咲いている純白の梅花の息吹は、児童生徒の心を表し、育友会員の私どもに社会的環境の浄化を示唆しているかのようでございます。

この二月のすばらしいよき日に、島原市第三小学校育友会発足三十周年記念式を挙行されますことを、育友会員の皆様と共に心からおよろこびを申し上げます。

PTAの発足でございますが、昭和二十二年三月に文部省から「先生と父母の会」の手引書が出版をされましたので、これを基準として、PTAが発足したのでございます。

この当時は学校建設や設備の充実が大切な事業でありましたので、PTAは金集めが活動の姿のような印象があり、成人教育については充分に理解できない時代でありました。

しかしながら、児童生徒の非行防止と健全育成は勿論のこと学校建設・施設整備の充実につきましては、PTAのご努力を高く評価すべきであろうと存じているところでございます。このような峠を越えました昨今では、教育費の保護者負担の軽減とPTAを本来の姿にすべきだという声が会員の間からあがってきたのであります。PTAを本来の姿にという意見にはいろいろありますが、成人教育活動を年間を通して実施することであり、そのためにはPTA規約の再検討をすべきだといわれています。

PTA団体は、子ども達の幸せな成長のために、父母と先生が協力して地域に即した教育活動をする教育団体であり、民主的団体であろうと思います。この教育団体という点が他の団体と性質を異にするのでございます。

英国の教育学者であるスペンサーのことばに、商人がソロバンと簿記を知らずに商売をしたら、世人はその愚かさを叫ぶだろう。解剖学を学ばずして外科手術をしたら、世人は大胆不敵と驚くだろう。両親が道徳や子どもの心理を学ばずして子どもを育てても、驚きの表情すらもたないのは、実に不思議であるといっています。

島原市立第三小学校育友会が育友会本来の姿を求めて、昭和五十三年度に向けて益々発展しますことをお祈りいたしまして、およろこびのことばといたします。

育友会発足三十周年記念祝辞

島三小同窓会会長
林田　俊雄

厳しい寒さの中にも、梅の香りや、野山のたたずまいにも、ほのかに春の気配が漂い始めました。この佳き時に、島三小育友会発足三十周年記念式典が挙行されますことは真に意義深く、喜びにたえない処であります。

そもそも育友会は、終戦直後社会情勢が混とんとしていた時、時代の要求により、父母と教師の会が創設せられ、尚一層民主的な学校教育を推進するため、育友会として歩みを続けて今日に及んだと承っています。この間、故初代大沢会長より、現在の本田会長に到るまで十二代、種々迂余曲折を経て、困難ないばらの道を克服してたゆみなき歩みを続け、今日の輝かしい成果を収められたのであります。

この間、天皇皇后陛下の行幸啓、又は、ソニー賞をはじめ数々の受賞の光栄に浴し、県下に島原三小ありと高く評価せらるるようになったのであります。これまったく、歴代の校長先生始め、諸先生や育友会の方々、また、ここに学ぶ多くの子供さんが三位一体となって努力せられた賜でありまして、これらの方々に心から敬意を表する次第でございます。

更に、去る昭和五十一年には、島三小創立百周年の祝典が、同窓会を中心として行われ、これを契機として、昨年十二月三日島三小同窓会の結成をみるに到ったのであります。

今後同窓会は、島三小の一つの支えとして、育友会の方々とも相協力し、母校の発展に少しでも協力できるよう努力したいと考えている次第であります。

ここに、母校島三小の隆昌と育友会の輝かしい発展を心からお祈りして祝辞と致します。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

お祝いの言葉

学校長　原口　晃

昔から物の譬に車の両輪ということが言われていますが教育をこれに当てはめると、学校教育と家庭教育が考えられます。

学校教育だけでは、教育の目的を達することはできません。家庭教育のしっかりした裏づけが絶対に必要であります。

本校の歴史百年間を考えてみますと、前期の五十年は、教師と個々のご家庭との密接なつながりがありました。後期の五十年は、後援会の二十年に引き続き、父母と教師の会の三十年の強力な結びつきであります。

ご家庭の学校に対するご尽力、ご協力の上で、長い年月を通じて一貫していることは三小を母のように、この母校を愛するというすばらしい伝統を受けつがれてきたことです。祖先を尊び、その精神を生かし続けてこられたことです。先輩の心をくみとって、祖父母から父母へ、それから子、孫へと、明るく大らかな気持で、学校教育に協力がなされてきたのであります。

現在の本校の育友会の方々が、三小をこの上なく愛し、活気に満ちて、生き生きとした姿で活躍していらっしゃるのは、この伝統を生かしておられるからだと思います。

教育のために、明るく、剛健な、そして積極的な前進をなさる姿こそ、三小育友会の特色であろうと思います。

車の両輪の譬の通り、この点、学校にとっては、全く力強い限りであり常に感謝いたしている次第でございます。

育友会発足三十周年に当り心からお祝い申し上げると共に、今後の益々のご発展を祈念して、お祝いの言葉と致します。

体育部

部長　広田誠一

島三小育友会　一年間を省りみて

本田会長より、体育部長を任じられまして、二年間、育友会員の皆様と子供クラブの親睦を目標に張り切ってやってまいりましたが、なんせ勉強不足の為、失敗と冷やあせの連続ではありましたが、幸いベテランの会長を始め役員・部員・先生各位の心あたたかいご協力で無事年間事業計画であります球技大会・水泳大会・育友会町内対抗バレーボール大会・親子ハイキングを終えさせて頂きました。

ありがとうございました。

一年間を省りみますと、球技大会の練習の折、夏休みになりますと、朝六時より八時までに練習が集中されまして練習場所の確保の為、前日の午後八時ごろには、三小運動場には、ベースがならべてあったり、町内の当番係かと思われます二～三人の子供が、朝二時ごろにはグランドに来ているとかなどの問題がおこりましたので、三小グランドでいつも練習しておられる町内の代議員さんと相談致し、時間と場所を決定はいたしたものの、他の町内の方に迷惑をかける事になりました。

また、球技大会参加町内において、会員並びに生徒数の増減が見込まれます関係で、合併しなければ出場できない町内、また町名変更にかかわる新しい町内を如何にしていくか、など問題が山積されてはいますが、まもなく子供クラブの新しい部長・副部長さんが誕生し、球技大会へ向かって、各町内で練習が始まろうとしています。

来年度の体育部の部長さんを初め部員さんに、これらの問題を解決して頂き、低学年から高学年まで一緒に参加できる意義がある、明るくて楽しいスポーツであるように、ご指導の程よろしくお願い致します。

環境部

部長　横田金男

部活動として一年間の反省を求められ、一年が経つのは本当に早いものだとつくづく感じ直している。また、反省の為にペンを取りながら、私達が育った小学生時代の学習生活環境が頭に浮んで来る。

偶然、テレビの番組に東京の三月十日大空襲の番組が飛び込んで来た。NHK三月五日朝の今日の番組紹介であるが、私達が小学新入生のときが昭和二十年四月終戦の年であった。

今日の学校環境と比較すること事態がおかしい話ですが防火演習・空襲避難訓練に、明け暮れた学生時代と現代はえらい違いである。余分な事を考えたり行動する余裕もなく生きる事に精一杯のあの時代がなつかしく、情報機関の進み過ぎ、大人の世界で作り出す当りかまわぬ商魂等により造り出された風紀環境が、小学生時代から起きつつある問題を助長させる一因になっていないだろうか。考えさせられる昨今であります。話が横道にそれてしまいましたが

部の反省となると何分西も東も解からぬまま一年が過ぎてしまい反省する材料すら乏しいくらいですので、今ここで頭に浮ぶ事を二三申し上げ、御了承を得たいと存じます。

環境部を仰せつかりながら、部の実情を理解する努力が足りず、部員の方々と実施した学校内外の施設、風紀の点検結果等についても会員皆様に報告する方法がまずかったり要約した事項を実行する行動力に欠けていた事など反省する事ばかりでした。しかし、部に席を置き、しみじみ思い直した事もあります。それは、子供達の校外活動についてですが、今まで子供達の一日一日の行動を私達が真剣に考え見つめて来ただろうかという事です。その点、今後は子供が先生・学友とどんな対話をし、何をつかみどんな行動をして来たか、日一日を見つめて行きたいと思います。

最後に、環境部として校内施設の点検見学と砂場の整備校舎の時計の取り替え等に部費を使用させていただいた事を報告して、とり止めのない反省文となりましたがペンをおきます。

生活部

部長　佐久間ガクジ

一年が過ぎるのはまことに早いもので、ついこのまえ年間計画を立案したばかりなのに、もう年度末の反省をせねばなりません。

生活部としては、やりたいこと、やらねばならないことが山ほどありましたが、その半分もできなかったように思います。

ここで今後の問題点等も含めて一年間の活動をふり返ってみたいと思います。

①子供クラブ掲示板の設置

年度当初の代議員会で呼びかけ、多くの町内でさっそく作成して戴きましたが、まだ未設置の町内もあるように思いますので、来年度中には全町内に少なくとも一カ所は設置して戴くようお願いします。

②生活標語の募集と掲示

前年度に引き続き、今年度も生活標語を全生徒から募集したところ、五五〇名から約八〇〇点の応募がありました。

どの作品も内容の良い立派なものばかりで、選考には大変苦労しましたが、最終的に二十一点を選び、これを四回に分け、常時五～六点を校区内全域に町内代議員の方々の御協力で掲示してきました。

③非行防止のための学習会

七月二十五日、三小体育館において「青少年の非行の芽をつもう」ということで学習会を開催しました。

少年センターの御協力により、いろいろな実例をあげてのお話しの中で、大変有意義な勉強をさせて戴きました。

④夜間の街頭補導

夏休み期間中二回にわたり二中生活部と合同で夜間の街頭補導を行ないましたが、さいわいにして実際に補導するという場面には出会いませんでした。

⑤巡回映画会

十月下旬に二週間にわたり七会場十町内の参加で映画会を実施し、約五〇〇人の方々に観て戴きました。

来年度はもっと多くの会場で、もっと多くの方たちに観て戴きたいと思います。

以上主なものだけを列記しましたが、まだやり残したことが沢山ある様な気がします。

最後になりましたが、この一年間心からの御協力を戴いた方々に深く感謝いたします。

保健給食部

部長　田原ミッキ

かえり見ますと、保健給食部は、今年始めて出来た部で、何をどうしたらいいのか、とまどいました。

私自身何も出来ない人間ですが、部員の皆様のおかげで一年がすぎようとしております。

一年間の行事・目標・活動内容を立て、始めて六月一日に三小の給食場を見学。三年前に二小を見学に行っておりましたので……三小の給食場を見た時、びっくりしました。何といっても場所がせまくて、給食場の出入口が持ちはこびにずいぶん不便だと思いました。それに、食器もずいぶんいたんでいたようでした。試食会も二回していただき、やはりパンが一番の不満のようでした。それから、十月に長与高田小学校に研修に行かせてもらいました。

お話に聞いておりましたように、大変立派な給食場でした。何から何まで給食の事については、小さいところまでゆきとどいて、夢のようでした。

私にとって、長いようで短かったこの一年間も、先生方をはじめ、部員の皆様の御苦労と御協力によって、一年間を無事に過させていただきましたが、まだまだ多くの問題があるようです。今後皆様の御協力により、一つ一つ改善してゆかねばならないと思います。

本当に、お世話様になりました。心から厚くお礼申し上げます。

学級部

部長　塚崎和秋

本年度学級部長を任じられ、大役すぎてどのように学級部活動を致していいものかと、思っておりましたら幸いに、西田先生始め部員の方や育友会員の皆様方の御指導、御協力を頂き、大変感謝致しております。授業参観及び懇談会にと出席向上のためには、今一度学級育友会の有り方を会員皆様の御意見を拝聴致してより多くの出席を目指すために、次のような項目にて学校側よりアンケート紙を配布し

ていただきました。
①学級育友会に参加されますか。
②出席できない理由
③授業参観の希望教科
④話し合いのテーマについての希望
⑤学校主任への要望・意見
集約の結果、内容はすでに各御家庭に配布されてありますのでここでは省かせていただきますが、回収率七五%という貴重な資料を頂きながら、何一つとして満足に目的を果し得なかった不徳を心からお詫び致します。最後に学級部活動に御協力戴きました学校当局、育友会長及び会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

教養部

部長　石本雄康

教養部になりまして、何とか一年が過ぎようとしております。この一年、部の活動と致しましては、ほんの一握りにすぎませんでした。当初の計画には、子供の眼「弱視、近視など」に就いての講演会科学映画会などもありましたが、残念ながら実現できませんでした。然し、この一年、教養部担任の永野先生をはじめ、部員の皆様には大変ご心配、お世話頂きありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

一、親と子の勉強会
　＝岩石について＝
一、講演会
　＝どうすれば、おこさんをだめにすることができるか＝

どこにもころがっている小さな石ころ、しかし、よく見ると同じ石ではない。石には数多くの種類があり、その誕生の仕方に依って、違った、いろんな石が生まれる。そんな点に子供の目が注がれれば、その石について考え、勉強してみたいと思う子供も出てくるでしょう。一方、講演会に就きましては、育友会会員の皆様も大変興味深く聞かれた事と思います。親は如何に自分勝手なものか、如何に子供の立場に立って考えないか、子供の目がどんな所に注目されているか、又、興味の対象が親と子でどこが違うかなど、大変興味深く、しかし、親としては考えなければならない問題ではなかったかと思います。

今、このとき、教養部として考えますと、大そうな講演会、或いは余り研究的、学問的なことばかりでなく、もっと見近かにある問題をもとりあげ、例えば、テレビの見方について（テレビの影響＝目に対して、姿勢に対して、勉強或いは、非行との関係は）など。数多くの問題について、会員の皆様と一緒に考え、勉強すべきではなかったかとも思っております。

最後に、話し会、講演会、或いは映写会などが催されたとき、都合が悪くて、どうしても出席出来なかった会員の方の事も考え、その対策を講ずる必要があったと思います。

交通部

部長　馬場武弘

交通地獄とまでいわれる今日の社会生活の中、毎日のように悲惨な交通事故の記事を新聞等で見聞します時、私は交通部の役割は大変な仕事であることをつくづく感じました。

交通規則を守るということは、簡単なようで守られてないのが今日の状況です。

私達は、交通事故がいかに悲惨なものであるかを認識し、お互いに交通規則を守ることによって交通安全を確保し、私達の暮しを守ることです。

私達交通部では、正しい交通を実践することによって交通事故を防止し、交通安全の意義を新たにして、皆さんが交通安全の周知と実践の促進をはかり、交通事故のない日の実現につとめる事を目的に、七月に低学年（一年生）とその父兄を対象に交通教室を開きましたところ、多数の出席をみました。これは、皆さんの交通安全に対する意識が非常に高い事を知り、私達交通部は大変よろこんでおります。

おかげさまで、この一年間三小地区での児童の大きな交通事故は、幸いにしてございませんでした。これも偏に各町内の育友会の皆さん方の、熱心な交通指導のたまものだと感謝いたしております。

また、昨年は七月頃から栄町の仲田自動車前より二中に至るまでの道路工事中は、非常に危険でしたが、新山・栄町の育友会の方々の毎日の道路補導により一件の事故もなく、交通部をはじめ父兄一同心より厚くお礼申し上げます。

何分にも、私の育友会の部の活動について不勉強の為、育友会の皆さんに対し、この一年間何んのお世話もできなかったことを心から反省し、お詫び申し上げます。

今後共よろしく御指導のほどお願い申し上げます。

広報部

「がんば」　定期発行　三回
　　特別号　一回
　　臨時号　三回

右の計七回の「がんば」発行をもって、今年度の広報部の任をはたすことが出来たようです。「会員に親しまれるもの」「学校と育友会とのパイプ役としての広報誌」というのが、この永い間築かれて参りました「がんば」のスローガンとなっておりますが、少しでもこの意に近づくことが出来たものかと、部員一同反省致しております。

今年度は、はからずも「五十号」という記念すべき区切りの良い号を発行出来、それを再確認する意味で「特別号」を発行。

大先輩の方々に沢山の御投稿をいただき、御協力に心より感謝致しております。育友会報としての「がんば」の益々の発展を念じて、次年度の部員の方々へバトンタッチ致します。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

さようなら島三小

心のぬくもり

古瀬恵子

長女が希望に満ちあふれて三小に入学したのが三十八年の四月。長男が四十年の四月。そして末娘が今春卒業。その間十四年、三小にお世話になりました。いや、私の場合もっと長く、私も三小を卒業し、父が三小の校長をしていた十年間は、校内の校長住宅（現在の白山公民館）に住みここで青春を過ごし、嫁に出たもので、三小は生涯忘れられない、私の古里であります。ほんのりと温かい響きをもった心の古里「三小」…。

いつか長女が、小学一年生の時の思い出話を聞かせてくれたことがありました。下校の時、決まって担任の先生が、「さようなら、さようなら、気をつけてね。」とひとりひとりの児童と握手を交わしてくださった。あの先生の手のぬくもりが今でも忘れられないと…。そして、長女は先生の手のぬくもりを大切に家に持って帰っては、明日も元気で学校に行こうとファイトが湧いたということです。

私は長女のこの話を思い出すたびに何ともいえぬ心のぬくもりを覚えます。あったかい雰囲気を感じる所、それが私たちの三小なのです。

卒業を目前にひかえた末娘も、とうとう私の背丈を越してしまいました。この六年間、先生に叱られようが、テストで悪い点をとろうが、毎日いそいそと学校へ通い続けた我が家のアイドル娘。最後の子どもの三小からの巣立ちを待つ今、万感こもごもといったところでございます。三人の子どもたちが、そろって伸び伸びと明るく、素直に成長することができましたのも、諸先生のあたたかい御指導のおかげと心から感謝いたしております。

三小が存在する限り、あまたの子どもたちが門をくぐり続けることでしょうが、そのすべての子どもたちの心の片隅に、「三小」がほんのりとぬくもり続けることを祈ってやみません。

＊＊＊＊＊

＊＊＊＊＊＊

「娘の卒業を前にして」

六の一　鶴崎清佳

「晴れたる青空ただよう雲よ」と喜びの歌を口ずさむ娘を見て、今更のように歳月の流れの早さに驚いております。

四人の子供を卒業させ、今度五人目の娘が卒業。いよいよ三小ともお別れの時が来たと思うと、喜びよりも一抹の淋しさが感じられます。

未熟児すれすれで生まれた娘は、入学時も一番体が小さくて心配しました。登校する娘を見て主人は「ランドセルが歩いているようだ。」と言って笑わせたりしましたが、毎日喜んで通学してくれました。

その頃、川尻地区は道路工事中で、かなり遠廻りをしての通学でした。雨や風の日は心配のあまり、気付かれないように後ろから学校近くまで付いて行ったことがありました。

親も子も緊張してしまった初めての授業参観、よく忘れ物をしては学校まで走って届けたこともありました。

そして、一番楽しかった音楽会に鼓笛隊の演奏、何はさておき行きました。又、夏の球技大会、山内の副部長になった娘が、友達と一緒に日焼けした顔を真赤にして活躍している姿を見た時、「甘えん坊だったあの娘が、ああ、いつの間にかこんなに成長して」と大変嬉しく思いました。秋には、生徒主催の運動会がありました。素晴らしい演技に皆大喝采でございました。

又、三小創立百周年を記念して「たゆまざるあゆみおそろしかたつむり」の北村西望先生の句が刻まれたりっぱな記念碑が建ち、子供達は学校の行き帰りに口ずさみ学んだことでしょう。こうして六年間をふり返ってみますと、親の私でさえも、なつかしい思い出が次々と浮かんでまいります。子供達はきっと、それ以上になつかしい思い出があることでしょう。

諸先生、本当に永い間、ありがとうございました。暖かく御指導いただき学んだ三小での六年間、子供とともに生涯忘れることの出来ないことでしょう。思い出を胸にして中学へ進学する日を夢見ておりますが、まだまだ未熟な子供達でございますので、今迄同様に御指導をお願い申し上げます。後になりましたが、三小の発展と諸先生方の御健康を心よりお祈り申し上げます。

卒業を迎えて

六の三　伊藤八郎

花の香りにも春の気配が感じられる比の頃です。

六年前、童顔をほころばせて三小の校門をくぐった子供達も、間もなく卒業を迎えさせていただく事になりました。

成長したわが子の姿をみる時、長い間細心の注意をはらい、熱心に御指導下さいました諸先生方の姿が思い浮び、ただただ有難く御礼の言葉もございません。当然家庭で躾なければならない事も、充分に躾が行きとどかず、先生方に御迷惑をおかけした事も多かったと思います。又、解らなかったり、我がままをしたり、なまいきな考えをもったりして、先生を困らせた事もあったのではないでしょうか。

しかし、先生方は寛大な心で温く御指導して下さいましたので、今では自分の意見もいえ、人の話も聞き、批判も出来るほどになりました。

毎日毎日を大切に御指導下さいましたおかげと深く感謝致しております。

昨年の早秋の頃だったと思いますが、トイレの掃除の話で、長い間先生に手本を示し

てと子供達のあまえとも思えますが、大切な御苦労の指導をなさった話を耳に致しました。

その他色々な出来事もありましょうが先生の御努力が、子供に通じているのでしょう。

クラス全体が一つになって、心から慕い勉学に励んでいる姿を見る時、ただただ感謝の気持で一杯です。

卒業式と同時にこの三小を巣立って行きますが、今後も折にふれお会いする時もあるかと思いますが、その節はどうか励ましの一言でもおかけ下さいますと子供も一層努力して行くかと思います。

どうぞよろしくお願い致します。

子供の卒業と同時に三小育友会を去ることになりますが、昭和四十一年長女が入学しまして今日迄、長い間大へんお世話様になりました。

先生方を始め先輩の方々の良き指導をいただき、又会員の皆様には、温い御協力を下さいましたことを、心より厚く御礼申し上げます。

〃ダメ親父の自己反省〃

小島佳節

月日の経つのは早いもので、二小より三小に転校し四年になります。果たして子供が、どう仲間と順応していくか心配しながら様子を見守っていたら、最初のうちは顔に傷つけながら帰って来る時も二度三度ありましたが、二週間程経つと、のびのびと登校するようになり、親の過保護を反省させられました。親として自分の子供のしつけすら満足にできないカミナリ親父ですが、教育の厳しさ、尊さを痛切に感じるこのごろです。生活環境はもちろん、一人一人の性格の違う子供を教育される先生方も、職業であれたいへんな仕事と感謝しています。

最近の子供は、先生のいう事はきくが、親の言いつけはきかないとよく言われますが、親として一考に値すると思います。

私の家庭では、子供の躾や教育に関して母親主体でした。

学校行事や参観日は母親一任で、子供すら母親が行くことが当然のような考えです。

母親まかせの教育で本当にいいものか、父親としての原点に立って見直さなければならないと反省しています。

最近、新聞紙上の三面記事を賑わしている親と子の関係を今一度、考慮する必要があるのではないでしょうか。子は親の私有物でなく、親は子を一人の人間として尊重して始めて、親子関係が生じてくるのではないかと思います。

育友会行事のスポーツ大会や遊びの中、各町内子供会行事の中などで、親と子の肌の触れ合いを通じ、父、母、子一体の姿を見出すことが父親に大切ではないかと思います。

仕事仕事で、子供にかまってやる暇もない多忙な毎日ですが、今後は積極的に参加するよう心がけ、せめて年二回父親として参観すべきだったと、自分に言いきかせています。

子供の成長の陰には、先生方の並々ならぬ努力と御指導があったればこそと、感謝の念を深くしております。

巣立ち行く子供達に、今後とも御指導をお願いします。

さようなら広報部!!

森　ルリ子

個人的な都合で、ずっと断わってたクラス代議員を引受けて、育友会の部活動に配置されたのが広報部との出合いでした。学生時代、新聞部に籍をおいたことがありましたが、全然内容の違い等にとまどいを感じながら、先輩の方や小峯先生の御指導の許に広報部員としての生活が始まりました。最初の一年間は右も左もわからず、少しは自分自身が、部員としての役割が果たせたのだろうかと反省の材料が残りました。「がんば」が出来あがった時の安堵感と喜び…。

どうすれば面白く、意義のあるがんばになるのかと、全員で夜遅くまで語りあかしたこともなつかしい思い出になりました。アンケートによるテーマにそった編集、この試みにより原稿の集まりがよくなったことは成功でした。しかし、その反面、今後に思うことは、広報部員の取材活動をもとにした記事、例えば、町内訪問（個々町内でのディスカッション、行事等の有様）先生訪問（今度は音楽の先生、次は理科の先生等）を加えることにより、今迄の原稿の集まりを主体としたがんばから一歩前進するのではないでしょうか。

きめられた予算の中で、せいいっぱいの枚数を使い発行していますが、もう少しページ数を増やすことで尚一層、充実した内容の物が読んでいただけるのではないかとも考えます。

広報の仕事を通じて知りあった部員達の交流も密接になり、家庭生活、仕事、子どもの事等相談し、アドバイスを受けたり、激励されたり、本当に相手の立場に立って心配してくれるよいお友達を得たことは、何にもまさる私の宝物になってしまいました。

子供が三小を巣立つと共に広報部ともお別れしなければなりません。名残りはつきませんが、三小の「がんば」がますます発展することを祈りながら最後に一言。

「広報部よさようなら」

編集後記

本年度最終号「五十二号」をおとどけ致します。黒一点（担当の小峰先生）女性ばかりの部員で、それなりに考えて一年間を取り組んで来たつもりです。内容的にはいかがでしたか。年間を通じ、原稿をお寄せ下さいました皆様には、心よりお礼を申します。

会員の方々の御協力で出来上る「がんば」です。

今後共御意見、御感想等お寄せ下さって、もっともっと充実したものへと育てて下さいますようお願い申します。